

2 学校および社会との連携

【概要】

広報普及事業は、歴博の研究活動や、それを基礎とした博物館活動を広く館外に紹介し、また利用者を支援して、日本の歴史と文化の幅広い理解を図ることを目的としている。

そのために開館当初からさまざまな事業を行ってきたが、近年は特に学校との連携に力をそそぎ、学校教員が積極的に博物館を活用できるための支援体制を強化している。また、大学の留学生教育にも関わることで、国際的な活動も展開している。

小・中・高等学校の教員を対象として行っている「先生のための歴博活用講座」および「博学連携研究会議」は学校との連携を目的とした事業の中核となるものであるが、「博学連携研究会議」は2018年度で2カ年を1期とする第5期が終了した。今年度から第6期を開始している。2008年にスタートした常時開設の体験コーナー「寺子屋れきはく」の登録ボランティアでは、2015年度に募集範囲の拡大を試み、順調に運営している。2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充したほか、これまでのプログラムの評価・改善を試みている。

これまでの活用状況を検証しながら、歴博と学校および社会とのよりよい連携の方向性の模索を続けることが今後必要である。

広報連携センター 村木二郎

【ファミリー向けプログラム】

れきはくこどもワークシート

当館では、小学生・中学生を対象とした「れきはくこどもワークシート」を作成しており、小学校・中学校団体等の見学や事後学習を効果的に行えるように作成した「歴史と話そう」や、展示資料の観察を主眼とした「さがしてみよう」（小学校1～2年生対象）、「じっくりみよう」（小学校3年生以上対象）がある。「さがしてみよう」「じっくりみよう」は、2019年度現在、第2・3・4・5展示室に対応しており、土日・祝日及び夏休み等長期休暇の開館日に配付している。なお、「歴史と話そう」については第1展示室リニューアルに伴い、該当部分の改定を実施した。

れきはくをかこうよ

「れきはくをかこうよ」は、小学生から中学生を対象とした、当館の展示を使ったスケッチ会として、2001年度より開催している。このプログラムは総合展示室を会場とし、好きな展示物を選んで写生するもので、絵を描いたあとに展示物の解説や作品へのコメントを当館の教員から受けることで、より展示物への理解と興味を高めようという試みである。完成した作品は当館ホームページの「子どもサイト」にて、画像を掲載している。

2019年度は下記のとおりである。

開催日時：2019年7月28日（日） 10:00～14:30

会場（担当教員）：第1展示室（村木）

参加人数：26名（保護者等除く）

歴博をつかった自由研究相談室

当館では、夏休みの期間中にエントランスホールに「自由研究相談」コーナーを設置し、当館学校対応職員及び学校教諭（博学連携研究員）を相談員として、小学校・中学校および高等学校の児童・生徒を対象に、夏休みの自由研究課題に関する相談を行っている。当館の展示資料に関連する図書の提供や展示資料の見方などを助言することにより、自ら課題を調べ、作品をつくりあげるための支援を目的とした取組である。また、自由研究相談室の参加者から出品を募り、作品の展覧会も実施している。

2019年度の開催は下記のとおりである。

開催日：2019年8月3日（土）、4日（日）

開催場所：エントランスホール

参加人数：31名

歴博をつかった自由研究相談室作品展

開催期間：2019年7月17日（水）～9月1日（日）

開催場所：休憩室（第2展示室・第3展示室間）

出品点数：20点

鑄造体験

「鑄造体験」は、2014年度に企画展示「弥生ってなに?!」の関連イベントとして行われたプログラムである。小学生以上の参加者が、「生駒銅鐸」「銅鏡」「銅銭」の鑄型に溶かした低融点合金を流し込み、ミニチュアを作製した。

2019年度の開催は下記のとおりである。

開催日：2019年4月5日（金）、4月6日（土）、4月7日（日）、7月30日（火）、7月31日（水）、8月8日（木）、8月9日（金）、8月10日（土）、8月11日（日）、8月12日（月）

開催場所：研修室

参加人数：268名

立体版れきはくをかこうよ

「立体版れきはくをかこうよ」は、小学生から中学生を対象とした、当館の展示を使ったスケッチ会の「立体版」である。2019年度より大日本印刷株式会社作成のペーパークラフト土偶（2種類）を用いて開催したプログラムである。このプログラムはまず、たいけんれきはく内にてペーパークラフト土偶を組み立て、それを第1展示室に持参して展示物を観察して写生するものである。展示物を細部まで立体的に観察することを目的とした試みである。

2019年度の開催は下記のとおりである。

開催日：2019年12月21日（土）～22日（日）

開催場所：たいけんれきはく、第1展示室

参加人数：32名

[大学・大学院]

大学・大学院への対応

当館は、大学共同利用機関であり、大学における学術研究の発展などに資するために設置された。大学・大学院に対しては、講義やオリエンテーション、研修などで歴博の施設や展示・収蔵資料を活用してもらうために利用手続きの改善を図り、『大学のための歴博利用ガイド—歴博でアクティブ・ラーニング—』の冊子を作成・配布している。対応もこれに基づいて行っており、展示の見学だけでなく、当館の教職員によって、展示や館内施設の解説を行っている。

2019年度は、67団体（学生延べ人数2,081名）について、上記のような対応を行った。

千葉大学留学生プログラム

千葉大学国際教育センターと国立歴史民俗博物館は、2009年10月から連携して、歴博の展示を教育および授業の素材として活用し、留学生の視点から「海外から訪問した人たちが日本の歴史や文化の展示をどのように見るのか、どのような点に注目してみたら母国の人たちがより分かりやすいのかを考える」というテーマのもとに、千葉大学の短期留学生が母国語でワークシートを製作する授業を開講している。2012年より、両機関の連携事業として正式に協定を締結して活動を行っており、これまで中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、ドイツ、オーストラリア、ポーランド、ロシア、トルコからの60名の留学生が各国語と日本語の2か国語でワークシートを作成した。2019年9月から9名の留学生（中国、台湾）が受講している。

完成したワークシートをプロジェクト紹介パネルとともに本館総合展示休憩スペースに並べ、来館者が閲覧できるようにするとともに、短期留学生が作成したワークシートについては、当館ホームページに掲載している。留学生が展示を通じて日本の歴史と民俗への理解を深めることは、歴博が推進する国際化という点でも重要である。また、留学生の視点を通じて展示の問題点を知ることは、外国人来館者への利便性を今後より充実させていくうえで基礎となるものであり、一定の成果を上げつつある。

[小学校・中学校・高等学校]

来館学校の対応・学校訪問

当館では見学に訪れた小学校・中学校・特別支援学校および高等学校等の団体見学に対して、展示室を見学する際のアドバイスとして、学校対応職員によるガイダンスやプログラムを学校側のニーズに応じて行っている。「ガイダンス」は260名までの人数を対象とし、「縄文時代の暮らし」や「江戸時代における江戸の暮らし」、「明治の学校の様子」などのテーマを用意している。「プログラム」は30名程度の人数を対象に、縄文・弥生土器の実物や、「洛中洛外図屏風」「江戸図屏風」など当館所蔵の資料をもとに作成した教材を利用して体験的に行われるものである。

2019年度において、上記のような対応を行ったのは、小学校139件、中学校11件、高等学校7件である。

中学校の職場体験や高等学校のインターンシップなどの受入も行っており、来客対応業務や考古整理作業、学校団体対応の補助等を主な体験内容としている。2019年度は中学校13件、高等学校3件の職場体験、大学生2件のインターンシップを受け入れた。

博学連携研究員会議

学校の教員が「研究員」として、博物館と学校との連携の仕方を考え、授業として実践していくことを目的として実施している。後述の「先生のための歴博活用講座」などを通じて歴博の展示を活用した授業の取り組みに関心を持った教員が、さらにそれを深めていく機会としての役割も担っている。

2年間を1期として活動しており、2018年度まで5期行われてきた。2019年度は第6期の1年目であり、会議は下記の通り開催された。

- 2019年6月16日（日） 第1回会議 ガイダンスルーム
 - ・展示解説（第1・3展示室）、前年度博学連携研究員実践報告
- 2019年8月23日（金） 第2回会議 ガイダンスルーム
 - ・展示解説（第2・5展示室）、実践分析に関する協議
- 2019年12月22日（日） 第3回会議 ガイダンスルーム
 - ・展示解説（第4・6展示室）、実践分析に関する協議

先生のための歴博講座 ―歴博を教室に―

当館には、毎年多くの学校団体が訪れている。この講座では、小学校・中学校・高等学校の教員を対象に、当館の展示や展示資料の理解を深めるとともに、それらを利用した授業の方法について事例を紹介するなど、学校教育における博物館利用の推進を図ることを目的としている。内容は、展示室の解説、学校対応・教育教材の紹介、参加者によるグループワークなどである。

- 2019年度は下記の日程でおこなった。
- 2019年8月1日（木） 参加者10名

佐倉市教育委員会教員研修

佐倉市の小学校・中学校の教員を対象に、リニューアルされた第1展示室の見学を実施した。さらなる歴博活用を目的とし、作成途中であった「児童・生徒向けワークシート」の試行を行い、改善に向けた意見を集約した。

- 2019年度は下記の日程で行った。
- 2019年8月6日（火） 参加者181名

たいけんれきはく

2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充しており、2015年度は弥生土器パズル、2016年度は木製積木を導入した。2017年度は、アイヌ語カルタを開発した。また、大月ヒロ子氏を2015年度より当館客員教員として迎え、たいけんれきはくの設置からこれまでの活動内容を評価し、問題点や改善点等の検討をすすめ、2019年度は常設展示との関連イベントの開発等を行った。

[社会連携]

地域活性化への貢献事業として、2019年3月～4月に、「歴博夜桜屏風観賞の夕べ」を開催し、延べ8,760名の来

場があった。また、2016年3月に締結された佐倉市との連携協定などに基づき、下記の事業に協力した。

- ・2019年3月～5月 市内ミュージアム連携事業「#佐倉ミュージアムSNS春割キャンペーン2019」
- ・2019年6月 にわのわアート&クラフトフェア・チバ
- ・2019年7月～9月 「佐倉の夏!もののけの夏!すたんぷらりー」
- ・2019年7月
～2020年3月 「サンキュー♡ちば フリーパス事業」及び「あなたのラブちば教えてキャンペーン」
- ・2019年11月 「東京スカイツリー全国観光PRコーナー」への出展
- ・2019年11月 観光イベント事業「佐倉“江戸”時代まつり」
- ・2020年1月～3月 JR東日本企画「駅からハイキング」

民間との連携事業として、東京国際空港ターミナル株式会社と連携し、東京国際空港国際線ターミナルにおいて、「羽田×歴博 Think Japan 日本の魅力を、考える。」と題して、江戸図屏風や洛中洛外図屏風の複製、「映画 旗本退屈男」の舞台衣装などを展示（2019年9月11日～9月27日）。実施会期中の観覧者は延べ178,451名に達した。民間との連携によるアウトリーチ活動を通じて国際的な研究成果公開を推進した。

[登録ボランティア]

登録ボランティアは、2007年度までは企画展示で活動していたが、2008年3月18日に第3展示室がリニューアルオープンするのに伴い、2008年度からは寺子屋「れきはく」を主な活動の場とするようになった。当初歴博友の会員の会員のみが登録ボランティアとなっていたが、2014年度からは会員外の方も参加できるようになった。

1. 登録ボランティア人数 103人（2019年6月1日現在）

2. 登録ボランティア活動延人数及び登録ボランティア活動件数（教材利用延件数）

日数	ボラン ティア	教材利用者									体験者 合計 (延人数)
		手習い 帖1	手習い 帖2	手習い 帖3	手習い 帖4	双六	蚕卵紙	屏風	算木		
2019/04	27	199	1,380	97	72	21	95	692	7	261	2,625
2019/05	27	197	1,491	61	28	12	95	858	38	261	2,844
2019/06	26	217	1,990	56	18	6	92	855	18	234	3,269
2019/07	26	212	1,549	76	57	13	123	629	104	293	2,844
2019/08	28	239	2,234	173	87	36	254	1,162	6	366	4,318
2019/09	27	205	1,230	99	32	10	156	602	84	217	2,430
2019/10	24	180	995	21	21	10	77	390	17	139	1,670
2019/11	26	201	1,329	46	30	8	113	696	6	159	2,387
2019/12	22	191	1,059	27	40	8	47	383	4	129	1,697
2020/01	23	198	843	36	43	16	53	419	29	143	1,582
2020/02	21	168	991	79	36	17	88	411	15	198	1,835
2020/03	2020/2/26～2020/3/31 新型コロナウイルス感染拡大防止のため寺子屋「れきはく」閉室										
合計	277	2,207	15,091	771	464	157	1,193	7,097	328	2,400	27,501

3. 登録ボランティア活動委員会、登録ボランティア総会及び登録ボランティア研修の実績

(1) 登録ボランティア活動委員会（2019年4月～2020年3月）

年9回開催、出席者数61名

(2) 登録ボランティア総会（2019年6月17日）

年1回開催、出席者数82名

(3) 登録ボランティア研修（2019年6月～2020年5月）

	開催日	テーマ	講師	出席者数
1	2019年8月5日	特集展示「もののけの夏—江戸文化の中の幽霊・妖怪—」	大久保 純一	56
2	2019年9月9日	第1展示室リニューアル「先史・古代」	山田 康弘 高田 貫太 仁藤 敦史	台風のため中止

3	2019年11月18日	企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と のなりたち」	憧れの島 原山 浩介	55
4	2019年12月16日	江戸城の庭	横山 百合子	59
5	2020年1月20日	『みんなで翻刻』で古文書翻刻に参加しよう	橋本 雄太	50
6	2020年2月17日	ボランティアマナー研修	キャリアコンサル タント 海野 純子	41
7	2020年3月23日	企画展示「昆布とミヨク」	松田 陸彦	新型コロナウイルス 感染拡大防 止のため中止

[博物館・資料館]

歴史民俗資料館等専門職員研修会

歴史民俗資料館等専門職員研修会は、文化庁との協力関係のなかではじめられた博物館や資料館の職員のための研修会で、1983年からおこなわれている。2年を1期として毎年開催され、現在は、文化庁との共催となっている。講師は文化庁職員と当館教職員が主に担当している。参加者は全国から都道府県単位で募集されている。

日程等の詳細は「第二部 事業編 IX 広報・普及 8 その他 ③歴史民俗資料館等専門職員研修会」を参照。